別紙様式２（高）

令和７年度　県立石岡第二高等学校自己評価表

目指す学校像	（１）変化するグローバル社会において活躍できる生徒を育成する学校 （２）伝統の継承・再生とともに社会の変化に柔軟に対応し、生徒・保護者・地域社会からの期待に応える学校 （３）普通科・生活デザイン科が相互に切磋琢磨しながら教育の質を高め、新しい価値の創造に積極的に挑戦し、社会に貢献できる生徒を育成する学校 （４）学校、家庭、地域社会と連携・協働し、社会に開かれた創造性豊かな教育を行う学校

三つの方針		具体的目標
「三つの方針」（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	地域社会の産業と伝統を中心となって支え、多様性を認め、自他ともに尊重できる人間の育成
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	個別最適な学びと探究活動、様々な体験学習によって、基礎的・基本的な学力と豊かな人間性を育み、多様な進路希望を実現する
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	本校の学習や活動に好奇心をもって意欲的に参加し、自己の可能性を信じて前向きにこつこつと取り組む姿勢と、思いやりや素直さをもつ生徒

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○探究活動を軸にした学びのスタイル改革（授業改善）について ・生徒による学校評価アンケートの一昨年との比較から △「先生はわかる授業を行っている。」 (R5)84.6% ⇒ (R6)85.2% △「授業ではタブレットや電子黒板、インターネットが効果的に使用されている。」 (R5)91.2% ⇒ (R6)91.5% △「先生は、一人ひとりに生活や学習面でアドバイスをしている。」 (R5)76.4% ⇒ (R6)77.0% △「学習アプリ（スタディサプリなど）を有効活用している。」　(R5)36.8% ⇒ (R6)42.3%	①チャレンジ・プロジェクト 「筑翠ルネサンス　Next Stage」の推進	○普通科と生活デザイン科の協働を図り、地域の課題を発見・解決し、新しい価値を創造する教育活動を展開する。 ○生徒が自ら地域や社会の課題に目を向け、自身のアイデアを生かし解決策を話し合って、学校内外へ向けて提案・実践する取組を実施する。 ○日本の伝統文化に対する生徒の理解を深め、郷土を愛し伝統文化を尊重する態度を養う。 ○自国文化や異文化の理解を深める指導の充実を図り、国際交流体験活動を定着させる。 ○探究的な学びのリーダー校として、本校の取組を積極的に発信する。	A

生徒は、教員がＩＣＴを活用し授業を効果的に行っており、わかりやすい授業が行われていると感じている。 教員はＩＣＴを効果的に利用することで、生徒に対し学習面等で生徒一人ひとりにきめ細やかな対応が一層できるようになったことがわかる。 今後の課題は、学習アプリのより一層の活用に向け、授業内容とのリンクや生徒の学習状況を把握し適切なアドバイスを行うといった個別最適化学習を教員間で連携を図りながら推し進めることである。 生徒を主語にして授業を行うことを意識し、今後も継続して、ＩＣＴや一人一台端末を活用した授業改善を進め、生徒が学ぶ楽しさを経験できるような授業を研究、実践していく。 ○キャリア教育について これまでのキャリア教育を見直し、本校生の実態に合った学校として一貫した進路指導を進路指導部が主導して改革を進めている。 ・令和６年度の進路合格実績 △国公立大学　６名合格 （５年連続国公立大合格） △私立大学　34 名　（昨年比　＋６） 就職　49 名　（内　学校斡旋　44 名、自衛隊　３名） 本校生は学校推薦等を利用した進学が多いことから、総合的な探究の時間で行っている探究活動を将来の進路に結びつけるなどして、高校での学びを将来に生かせるように進路指導部と探究推進部の連携をさらに充実させていく。	②探究を軸とした学びのスタイル改革とＩＣＴ教育の推進	○生徒が正解のない問いに臨む機会を創出し、自ら主体的に学ぶ課題解決型の学習スタイルを確立する。 ○協働学習、個別最適な学び、協働的・探究的な学び、反転学習等において、ＩＣＴを活用した教育活動を推進する。 ○学習アプリの活用を促進する。 ○異校種との連携や校内外の研修への参加を推奨し、高い専門性を持った学び続ける教員を育成する。 ○教務部や各教科と連携し、教科等横断的な授業を実践する。 ○授業改善 ・生徒による授業評価「授業を通して、知識や技能（技術）が身に付いた。」(KPI3.4) ・生徒による授業評価「授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた。」(KPI3.4)	A
	③特別活動やボランティア活動等の体験的活動の充実	○教職員の支援のもと、学校行事の充実を図るための取組を推進する。 ○生徒会の主体的な活動の促進等、生徒の自治的・協働的な活動を活性化させ、シティズンシップ教育を推進する。 ○ボランティア活動などの社会奉仕体験活動への参加を促し、自己有用感の育成を図る。	B
	④多様な進路希望に対応したキャリアデインの形成	○自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する資質・能力を育成する指導の工夫を図る。 ○就業体験活動（インターンシップ）等、キャリア教育に関する実践的・体験的な活動への参加を促進する。 ○キャリア・パスポートを活用し、キャリア学習の見える化と保護者との情報共有に資する。	A

別紙様式２（高）

○豊かな心の育成について 　生徒一人一人の悩みや不安に寄り添えるようスクールカウンセラーや外部専門機関との連携を今後もより一層強化していく。また、今年度から一人一台端末を活用した教育相談も取り入れた、生徒の悩みを早期に発見し解決できるよう、今後も教員一丸となって取り組んでいく。 ○働き方改革 　職員の勤務時間については、勤怠管理システムのデータを分析し、面談等で勤務状況等の把握と情報共有を行い、教員自身で効率のよい働き方を考えていく。 　定時退勤日の退勤時間の順守、時差出勤制度や長期休業中のテレワークの活用などを推進する。また、会議や学習指導におけるＩＣＴの積極的な活用で、教職員の負担軽減に努めていく。 　生徒を主語にして授業を行うことを意識し、今後も継続して、ＩＣＴや一人一台端末を活用した授業改善を進め、生徒が学ぶことへの喜びを経験できるような授業を研究、実践していく。	⑤豊かな心をはぐくむ教育の推進と生徒支援の充実	○小さなトラブルにも早期に対処しいじめを未然に防ぐ。 ○生徒の実態を把握し、学校の課題を明確にした生徒指導体制づくりを行う。 ○各教科の授業等で道徳性や規範意識、モラルを高める取組を充実させる。 ○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家の積極的・効果的な活用と教育相談体制の強化を図る。 ○教職員自らの人権に関する認識を深め、指導力の向上を図るための研修を充実させる。	A
	⑥開かれた学校づくりの推進	○学校公開等の実施や地域行事等への積極的な参加等により、保護者・地域社会との連携を強化する。 ○学校ＷＥＢページの充実やＳＮＳ等を活用し、積極的に学校の取組や生徒の活動を発信する。	A
	⑦働き方改革の推進と職場環境の改善	○定時退勤日や完全退勤時間等の取組を促進し、超過勤務時間の縮減に努める。 ○時差出勤制度やテレワークを積極的に活用する。 ○部活動運営方針の徹底を図る。 ○教材等の共有や外部の教育資源の活用を推進する。	B
	⑧コンプライアンスの遵守	○厳正な規律と高い倫理観を保持しつつ職務に精励する。 ○教職員一人一人が全体の奉仕者であるといった公務員の原点を改めて思い起こすとともに、職務上の義務や身分上の義務について理解し、自らの行動を見つめ直す。 ○教員評価面談等及び学校コンプライアンス委員会の開催や法令遵守に向けた研修を行い、教育公務員として服務規律を遵守する意識を一層徹底する。	A

別紙様式２（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務	教育課程について、現行の課程の見直しも含め、適切な運営と授業の充実を図る。	生徒の実態に応じ各分掌と調整しながら適切な教育課程を検討、作成し、「わかる授業」を展開する。	A	B	・授業改善について、探究推進部と連携しながら、相互参観の意識付けをより強く推進していく必要がある。 ・HP の更新に関し、素材となる行事の画像・原稿の依頼元となり取りこぼしのないように努める。 ・教務の業務内容の複数名による分担化を進め、省力化と引き継ぎをしやすい環境を進めていく。
		新学習指導要領に基づき、「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業を展開できるよう、研修報告の場を設けるなどの校内研修を実施する。	B		
		探究推進部や各教科と連携し、教科等横断的な授業実践を行う環境を整備する。	A		
	適切な年間計画を編成し、教育活動の円滑な実施を図る。	各分掌と連携をとりながら行事の精選を行い、バランスの取れた年間行事計画を作成すると同時に、状況の変化に柔軟に対応した運営を行う。	B		
	校内の ICT 環境の整備	校内 ICT 環境整備を着実に進め、教師・生徒が早期に円滑な運用を行えるよう努める。	B		
	事務処理の効率化と適正な情報管理を図る。	校務支援システムによる成績管理システムを整備し全職員が円滑に運用できるようにする。	A		
		成績一覧表、通知票等の処理を円滑、確実に行う。	A		
		奨学金等に関する広報と事務処理を的確に行う。	A		
	広報活動を充実させる。	学校公開の内容を充実させ、インターネット等を通じて確実に発信する。	B		
		進学フェアへの参加、中学校訪問等を積極的に行い、様々なニーズに対応した広報活動を行う。	A		
進路指導	各学年の進路指導計画に基づいた職業観・勤労観を育成し、生徒の希望進路を実現する。	1学年：進路講演会、進路ガイダンス等を通して早期から高い進路意識を育成する。	A	A	・生徒の自学自習の確立のために進路学習室の活用を高めていく。 ・生徒の学力の分析や上位層の指導を組織的に行えるよう整備していく。
		2学年：進路希望別見学会、インターンシップ、進学相談会参加等を通して個々に合った進路意識を明確化する。	A		
		3学年：1・2学年で獲得した進路に対する知識・経験を基に、個々の進路を実現させる。	A		
	より高い学力を養成し、大学・専門学校の進学率を高める。	土曜課外、平常課外授業等へ積極的に参加させるほか、進路学習室の積極的な活用を促し、より高度な学力・応用力の向上を図る。	B		
		大学・専門学校のオープンキャンパス及び大学出張講義等への積極的な参加を促すとともに、大学への進学・入試に対して早期の意識づけをする。 校外模試を積極的に活用し、生徒一人一人の学力をきちんと共有・分析し、高い志を持って進路選択ができるよう指導する。	B		
生徒指導	心の教育を充実させ、規範意識とモラルの向上を図る。	規律委員を中心にあいさつ運動を率先して行い、礼儀や言葉遣いなどマナーを身に付けさせる。	A	A	・巡視を増やし校外でのマナーの醸成をはかる ・自ら進んであいさつができるようにする ・対人関係や感情コントロール能力を養成するＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニン
		自己を大切にし、他人を尊重する心を養う。	B		
	問題行動の未然防止に努める。	校内・校外の巡回指導を継続的に行う。	A		
		生徒の小さな変化を見逃さない。	A		
	交通安全教育を推進する。	関係諸機関との連携を図り、交通講話などを実施して事故防止に努める。校外巡視指導や保護者との連携により事故及び防犯に関して確認事項の徹底を図る。	A		

	情報機器の正しい使い方について啓発活動を行なう。	SNS 等の正しい使い方について啓発活動を行い、事故の未然防止につなげる。	A		グ）が必要と思われる。
	地域社会からのさらなる信頼を得る	学校外での節度ある行動に繋げるための望ましい習慣を身に付けさせる。	B		
生徒指導 いじめ防止	未然防止に努める。	いじめ未然防止のため、生徒の規範意識を高める。	B	A	・いじめに関する職員向けの研修を行う。具体例をつけ一連の流れをフローチャートにするなど、イメージしやすくする。 ・生徒に対して、具体的な事例を提示し、加害者にも被害者にもならないよう、さらに未然防止をはかっていく。
		生徒が教職員に相談しやすい関係を構築する。また、スクールカウンセラーの一層の活用を図る。	A		
		インターネットやSNSを通じて行われるいじめ防止に努めるとともに、情報モラル教育を推進する。	A		
		相談窓口を複数周知し、相談しやすい関係を構築する。			
	早期発見に努める。	いじめに関するアンケートを定期的に行うほか、生徒の発する小さなサインを見落とさず、いじめの早期発見に努める。	A		
	早期解消に努める。	適切にいじめの事実を確認し、被害者の心のケアをする。	A		
		加害者に対して、いじめを許さない指導を徹底しつつ、心のケアをする。	A		
		重大事件があった場合、速やかに調査結果を県教育委員会を通じて知事に報告する。	A		
	関係機関との連絡体制の強化に努める。	保護者と密接に連絡を取り合い、事実の掌握と早期発見・早期解決に努める。	A		
		警察、児童相談所、法務局等の関係機関と連絡体制を構築し、相談することで早期解消を図る。	A		
	教職員の研修を深める。	専門家によるいじめ防止対策等や実践的な研修を行い、全職員の共通理解のもと、いじめ問題の解決に向けた体制を構築する。	A		
特別活動	生徒主体の自発的な生徒会活動を展開する。	生徒会役員を中心に、生徒の自主性を尊重し、行事の企画・準備・運営に取り組む。	A	B	・生徒会を中心とし、夏季における登下校の服装についての校則の見直しを継続する。 ・学年主任や進路指導部と連携しキャリア・パスポートの活用を促進する。
		校則等を考え、議論する活動を継続し、学校生活や生徒会活動への主体的な参加を目指す。	A		
	体験活動に積極的に取り組ませる。	豊かな人間性を育むことを目指し、ボランティア活動等の体験的な活動に生徒が積極的に参加できるよう支援する。	B		
	教育活動としての部活動の活性化を図る。	活動の成果の掲示場所や発表の機会を増やし、生徒の部活動に対する関心やモチベーションの向上を図り、達成感や自己有用感を高める。	B		
	キャリア・パスポートの活用を促進する。	学校行事の記録にとどめず、進路行事等とも連動させることで、生徒が自己変容と自己実現に向けて活用できるよう支援する。	C		
探究推進	石岡二高としての「総合的な探究の時間」の基本的枠組みを確立し、探究を軸とした学びのスタイル改革を推進する。	「総合的な探究の時間」の年間計画をもとに、体系的な指導を行う。	A		・計画に基づく体系的な指導の結果、学年を超え前年度までの実績を活かした発展的プロジェクトを実施できた。
		探究推進部と学年が連携し、協働して「総合的な探究の時間」の企画運営を行う。	A		
		教務部や各教科と連携し、教科等横断的な授業を実践する。	A		

	ICT を活用した教育活動の一層の充実を図る。	ICT 活用研修を積極的に実施し、教員の ICT スキルの伸長を目指す。	B	A	・学習アプリの活用と探究ポートフォリオの作成が次年度に向けた課題である。 ・一人一台端末の活用には、学年・教科・科目での目標設定を促す必要がある。 ・定期的な部会を通じて、滞りなく事業を実施できた。生徒主体の活動を支えるためには、今以上に学科・学年を超えた「オール石二」の協力体制を整えていく必要がある。
		学習支援アプリの活用方法について、学年に対するフォローやマネジメントを行う。	B		
		１人1台端末を前提とした授業実施を職員全体に呼びかけ、授業での活用を増やす。	B		
		SNSやホームページを活用して生徒の活動や学校の情報を発信することで、石岡二高の魅力を外部に伝えると共に、開かれた学校づくりに寄与する。	A		
	チャレンジ・プロジェクトに関係する行事の円滑な企画運営を行う。	部会を定期的に開くことで学年・分掌との情報交換を密に行い、進行状況を学校全体で共有しながらプロジェクトを実施する。	A		
		外部機関との連携協力において、担当分掌としてのイニシアティブを発揮し、学年・分掌のフォローやマネジメントに努める。	A		
		事務室との連携を密にし、各事業の予算執行状況を常に把握しながら、プロジェクトを実施する。	A		
保健厚生	生徒が学習するために適切な環境を整備するとともに、適正な職場環境の整備に貢献する。	安全点検、環境衛生検査を実施する。	B	A	生徒の心のケアについては、引き続き担任・保護者・SC と連携し支援する。SC の利用希望、継続利用者が増加している。特別支援学校の巡回指導も積極的に取り入れ、個々の問題に対応する。
		清掃監督の職員や整備委員と連携し、普段の清掃活動に加え、ワックス塗布や大掃除等を行い、校内美化に努める。	A		
		衛生委員会と連携して、職員への健康に関する研修を推進する。	A		
	心身の健康の維持・増進に努め、生徒の心の居場所を提供し安らげる環境を整備する。	保健委員、福祉委員と連携し、健康診断と外部講師による性教育講話を実施する。	A		
		生活習慣を見直し、健康的な生活の維持に努める。	B		
		担任・保護者・SCと連携して生徒をチーム支援していくとともに、カウンセリングの環境を整える。	A		
		特別支援を必要とする生徒を個別に支援する体制を整える。	B		
図書	生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育活動のさらなる発展に寄与する。	「学習・情報センター」として、学校図書館を活用した学習活動や読書活動を日々の各教科等の指導に取り入れ、生徒の思考力、判断力、表現力等を効果的に身に付けさせる。	A	A	・Ｗｉ－Ｆｉアクセスポイントの工事が終了し、図書館のネット環境が整った。次年度は「学習・情報センター」としての役割がより強化される。 ・次年度も学年や教科、部活動など多方面から図書のリクエストをいただき、購入に反映させたい。 ・次年度も今年度同様に、図書委員研修会の分科会を担当することになる。図書委員のさらなる飛躍が期待される。
		生徒の自学自習の場として利用の促進を図るため、環境整備に努める。	A		
		SDGsや LGBTQ、民族共存など現代の諸問題に関する書籍を増やし、生徒の利用する意欲を高める。	B		
	生徒の想像力を培い、それぞれの興味・関心や豊かな心を育む、自由な読書活動や読書指導に取り組む。	オリエンテーションや読書、マナーに関する啓発活動を行い、図書館利用を促す。 「本屋大賞」ノミネート作品など優れた作家・作品を積極的に取り上げ、紹介していく。	B		
		学年、教科の推薦図書や生徒の希望図書を把握し、適切で有用な選書を行う。	B		
		図書委員の研修会やビブリオバトル、読書感想文・感想画コンクール等を通して、読書活動を活性化し、豊かな感性を育む。	A		

別紙様式２（高）

渉外	生徒の健全な発達を支える環境整備を目的として、保護者・地域との相互理解・連携強化を図る。	保護者が主体的に参加できるＰＴＡ新組織により、役員と連携を密にして運営する。	A	A	・生徒が学校生活を充実して送るためのサポートを継続していく。 ・校務の内容の精選を図る。
		地域の巡回指導を実施し、生徒の登下校の実態把握及び改善を図るとともに、登下校ルートの環境整備を行う。	A		
		高Ｐ連の行事に積極的に参加して先進事例を学び、本校の活動に活かす。	B		
		学校の活性化のために、同窓会との協力体制を強化する。	A		
家政	学科のねらいを明確にして取り組む。	2つのコース制（フードデザインコース・ヒューマンサービスコース）を取り入れることで、特色ある授業を展開する。また、積極的に外部の専門家を招聘し、より専門性の高い授業を行うことで、職業人としての資質・能力を育成する。	A	A	・行事の精選 ・地域行事への参加の精選 ・教科、学科の仕事だけでなく、県の仕事も多いため、次年度は内容を精選し教員が無理なく働ける体制をつくりたい。
		課題研究（3学年・4講座）では専門家や地域資源を活用し、生活産業に関する課題を発見し、研究の成果を発表する場を設け、専門性と自己有用感を深める。また、SNSを活用し、生活デザイン科の特色について広く発信していく。	A		
	教科と家庭クラブ活動の連携を図り、生徒主体の活発な活動を促す。	家庭クラブ活動を通して、講習会やボランティア活動、校内外の奉仕活動などへの積極的な参加を促し、社会参画や勤労への意欲を高めさせる。	A		
		家庭や地域との連携を図りながら、ホームプロジェクトを実施し、発表活動を取り入れることで、探究学習の充実を図りながら研究活動を継続していく。	A		
	職業人として必要な豊かな人間性を育む。	様々な体験学習や多様な教材を活用して地域に望まれる豊かな人間育成を目指す。また、個別最適化な学びをとおして、基礎基本の技術を修練し、家庭科技術検定の上級合格を目指せる生徒を育成する。	A		
第1学年	基本的な生活習慣を身に付け、自己管理能力の伸長を目指す。	怠惰な欠席・遅刻・早退を見逃さずに指導し、授業開始には準備を完了して待つなどの行動を徹底させ、時間を守る習慣を身に付けさせる。	B	A	・マナー・モラルの向上の為に、歩きスマホなどを見かけたら繰り返し指導する。 ・遅刻をしない、時間を守る、提出期限を守るといった基本的な生活習慣の徹底。 ・他者を思いやる心を育成するためのプログラムを形成する。 ・外国籍生徒への対応・支援（できれば学年でなく学校として組織化してほしい） ・IT 機器の管理の徹底 ・情報セキュリティの管理 ・入学当初におけるオリエンテーションの内容の改善。
		学習課題の提出を促し、未提出の生徒への指導を徹底することで学習習慣の確立を図る。	B		
	基礎学力の向上とキャリアデザインの形成を図る。	探究を軸とした学びのスタイル改革とICT教育を推進し、魅力のある授業づくりに励むことで、生徒一人一人が積極的、主体的に学習する姿勢を育成し、基礎学力の向上を図る。	A		
		スタディサプリ等の学習コンテンツを利用して家庭学習や課外学習を推進し、キャリア・パスポートを活用し、キャリア学習の見える化によって、上級学校への進学を希望する生徒の意欲と学力の向上を図る。	A		
		総合的な探究の時間や各種講演会などの行事において探究活動を推進し、自らの進路や生き方を主体的に構想・設定する姿勢を育成する。	A		
	豊かな心を持った人間性のある生徒を育成し、思慮分別がある成人となるべき準備をする。	他者の言葉に耳を傾け、素直に話を聞く態度を育成し、他者を思いやる心や共感する力を養う。	B		
		挨拶を励行し、正しい言葉遣いができるように指導することで、高校生としてふさわしい振る舞いや、分別がある行動ができるようにする。	A		
		自己決定権を尊重し、校内外の活動に積極的に参加を促すことで、主体的・協働的に活動す	A		

		る姿勢や社会に参加する姿勢を育成するとともに、集団への帰属意識や規範意識の確立を目指す。			
第2学年	安定した生活習慣を身に付け、自己管理能力の伸長を目指す。	欠席・遅刻・早退の原因を明確にし、今未来手帳を活用して、生活のリズムを見える化し改善を図っていくことによって、安定した学校生活が送れるようにする。	B	A	今未来手帳の活用において課題が残る。しかし、来年度は進路活動が一層本格化するので進路活動に必須にするなど仕組みを整え、効果を最大限に引き出したい。 基礎学力の向上に向けて各教科担当がアンケート・振り返り、アプリ、スライド、電子黒板など多様な角度から個別最適な学びの実現に向けてアプローチしている。 各ホームルームで小さなことを見逃さず、細やかな指導を行い逐一主任に報告を行っている。特に最高学年に向かって、行動・身だしなみの客観視を意識させている。
		今未来手帳を活用して、学習課題に対して自ら責任を持って計画的に取り組む態度を育成する。	B		
	基礎学力の向上とキャリアデザインの形成を図る。	協働的・探求的な学びとICTの活用を推進し、魅力のある授業づくりに励むことで、生徒一人一人が積極的、主体的に学習する姿勢を育成し、基礎学力の向上を図る。	A		
		スタディサプリの学習コンテンツを利用して家庭学習や課外学習を推進し、上級学校への進学を希望している生徒の学力向上を図る。	A		
		生活デザイン科、普通科の特色を生かし、進路行事・就業体験活動や探究活動を通して、自らの進路や生き方を主体的に構想・設定する姿勢を育成する。	A		
	豊かな心を持った人間性のある生徒を育成し、思慮分別がある成人となるべき準備をする。	他者の言葉に耳を傾け、素直に話を聞く態度や共感力を育成し、他者の特性への理解や配慮する力を養う。	A		
		挨拶を励行し、正しい言葉遣いができるように指導することで、高校生としてふさわしい振る舞いや、分別がある行動ができるようにする。	B		
		各学校行事への積極的な参加を促すことで、主体的・協働的に活動する姿勢を育成するとともに、集団への帰属意識や規範意識の確立を目指す。	A		
		自己決定権を尊重し、校内外の活動に積極的に参加することを促すことで、責任感と社会に参加する姿勢を育成する。	A		
第3学年	基本的な生活習慣を身に付け、自己指導力の伸長を目指す。	欠席・遅刻を繰り返す生徒に対して、保護者との連絡を密にしながら、基本的な生活習慣の改善を図る。	A	A	・スタサプの活用方法を考えていく必要がある。生徒へ有用性を理解させていく必要あり。 ・進路指導において、特に国公立大学進学者へのサポートが一部の教員に負担が偏ってしまった。サポート体制を整える必要がある。 ・まだまだ正しい言葉遣いができない生徒も見受けられるので、社会人としての資質の育成が課題である。
		学習課題の提出を促し、未提出の生徒への指導を徹底することで、学習習慣の確立を図る。	A		
		自分自身を律し、約束を守る、他人に迷惑をかけないなど、自己規律力の育成を図る。	A		
	基礎学力の向上とキャリアデザインの形成、進路実現を図る。	ICTの活用やアクティブラーニングを推進し、魅力のある授業づくりに励むことで、生徒一人一人が積極的、主体的に学習する姿勢を育成し、基礎学力の向上を図る。	A		
		個に応じた指導を徹底し、国公立大学の複数名合格をはじめとした、個々の希望する進路実現を学年・進路指導部、教科の教員チーム一丸となって図る。	B		
		生活デザイン科、普通科の特色を生かし、進路行事や課題研究、探究活動を通して、自らの進路や生き方を主体的に構想・設定する姿勢を育成する。	A		
		学年と進路指導部の連携を強化し、生徒の進路実現に向けて有効な指導を行う。	A		
	豊かな心を持った人間性のある生徒を育成し、思慮分別がある社会人となるべき準備をする。	他者の言葉に耳を傾け、素直に話を聞く態度を育成し、他者への配慮や共感する力を養う。	A		
		挨拶を励行し、正しい言葉遣いができるように指導することで、社会人としてふさわしい振る舞いや、分別がある行動ができるようにする。	B		

		各学校行事への積極的な参加を促すことで、主体的・協働的に活動する姿勢を育成するとともに、集団への帰属意識や規範意識の確立を目指す。	A		
		自己決定権を尊重し、校内外の活動に積極的に参加することを促すことで、責任感と社会に参加する姿勢を育成する。	A		
		自らの意思を明確に表明し、進路等に関わる事項等の報告・連絡・相談・確認を自律的に実施することを通して、社会人としての自覚や教養を育む。	A		
国語	基礎学力定着の徹底を図る。	漢字・語句の基礎的な力を培い、国語力の向上を図る。	A	B	・授業改善に向けて相互授業参観の充実を図る。 ・各人が ICT を活用した授業展開を意識し、技術や方法等について情報共有を図る。 ・各学年で使用している学習アプリとの連携に努める。 ・語彙力強化に向けて漢検学習を継続し、学習会等を充実させて受験者数や合格率の向上を図る。
		ICT機器の利用や、言語活動を通して、伝え合う力や思考力、想像力を伸ばす。	B		
		学校図書館と連携し、生徒の読書に対する意欲を喚起する。	B		
		古典の世界に親しませるため、画像や音声等を含む教材を利用し、多くの文章に触れさせる。	A		
		学習アプリを活用して弱点を補強するなど、個別最適化された指導を取り入れる。	B		
	進路を意識して、必要な教材を授業に組み入れる。	問題集等を活用して国語に関する知識を増やし、言葉を適切に使えるようにする	A		
	生徒の実態に応じた授業改善を行う。	生徒の自己評価や授業アンケートを活用して生徒の取り組み状況や理解度を測り、授業の改善を図る。	B		
地歴・公民	基礎学力の定着を図るとともに、生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を促進する。	ICTを積極的に活用し、生徒の実態に応じたわかりやすい授業を展開する。小テストを実施したり、ノートを定期的に提出させたりしながら理解度を確認し、基礎的な内容の確実な定着を図る。	B	B	・史資料を提示し、それをもとに考察する活動を積極的に行うことができた。一方で、その考察をまとめ表現したり、自ら問いを考えたりする活動を増やしていく必要がある。 ・生徒の興味・関心を引き出す話題提示の方法や、グループ学習の方法について授業改善を進めていく必要がある。
		成人年齢の 18 歳への引き下げに対処すべく、シティズンシップ教育や課題探究型の活動を充実させ、地球規模で考え、地域社会に貢献する人材を育成する。	B		
		地域の歴史と日本史・世界史を結びつけた授業を行い、地域の歴史を多面的に理解した人材を育成する。	B		
	授業改善	ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、対話をもとに学習事項の定着を図る。また、ICT を活用し、史資料を視覚的に分かりやすく提示し、史資料をもとに考察し、まとめ、表現する授業を展開し、思考力、表現力を高める。	B		
数学	生徒の学習意欲を喚起し、個に応じた最適な指導をする。	重要な公式を確実に身に付け適用できるようにすることで、数学の有用性を認識させて学習意欲の喚起を促し、具体的な目標を定めて学習する姿勢を身に付けさせる。	A	B	・課外授業を習熟度別に実施できた。 ・スタサプを教科として活用しきれなかった。単元や補強したい分野での活用を目指したい。
		課外授業や個別指導、学習コンテンツ等を通して、上級学校へ進学を希望する生徒や数学を苦手に感じている生徒に応じた、個別最適な指導を行う。	A		
	基礎学力の定着を図る。	第1学年普通科では、学習習熟度に応じて2クラスを3分割にし、理解度の段階に応じた授業を展開する。	B		

		スタディサプリやデジタルコンテンツを積極的に活用して、授業内容の理解を深める。さらに課題配信を行い、家庭学習を促進し、基礎学力を高める。	B		・単元テストは、昨年より工夫して実施は出来たが、思判表を測るにはまだまだ工夫が必要である。
	授業改善	問題を解決するための資質・能力を育成する。習熟度別授業を活かし、集団に適した授業を行い基礎・基本の定着と応用力の向上を図る。また、単元テストを利用して論理的表現力の向上を図る。	A		
情報	知識・技能及び情報の分析・評価・判断力を育成する。	情報機器を操作する時間を定期的に設け、情報社会の変化に対応できる能力を高める。	A	B	・個人情報や著作権の理解が浅く、情報モラルを守れずに投稿を行う生徒が見られた。 ・タブレットを活用する習慣がない為、アプリケーションや Web 上での学習が限定的であった。 ・探究や普段の授業でクラスルームやスタディサプリを活用することができた。今後も生徒の状況に合わせた活用方法が必要である。
		アプリケーションソフトを積極的に活用し、情報を効果的に処理できる能力を身に付けさせる。	B		
	情報モラルに配慮する態度を身に付ける。	個人情報や著作権についての学習を通して、適切な SNS や情報の扱い方を学ばせる。	B		
		ICTに関わる学習を通して、情報社会において守るべき情報モラルについて考えさせる。	B		
	授業改善	Web上での学習を推進し、個別最適学習の実現を図る。 ICT を活用しながら自ら学習を調整し、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現など、主体的に学習を進める授業を展開する。	B		
理科	基礎学力の定着を図る。	小テスト等の機会を増やし、スモールステップを意識した指導を行う。	A	A	・タブレットの活用について定型化しつつも、継続的な改善を行っていく。 ・強化横断、探究的な授業展開を引き続き試みていく。 ・観察・実験の場面をできる限り多く設定する。
		グループワーク等の学び合い活動やプレゼンテーション等の活動を通して、自分の考えを自らの言葉で表現できる力を養う。	A		
		電子黒板やタブレット端末等のICT機材を活用し、双方向型の授業を行う。また、課題配信を定期的に行い、個別最適な学びを促進する。	A		
	観察・実験を通して、理科的な探究活動を行う。	観察・実験を通して理科の面白さを体験させ、興味・関心が高まるように指導する。	A		
		観察・実験の結果の分析、解釈、考察など、理科的に探究する過程を通して、思考力・判断力・表現力を育む。	B		
		実験器具の使い方や実験後の片付け等の指導を通して、実験操作の意味や流れについて自ら考え、主体的に行動する態度を育む。	B		
	理科的現象への興味と関心を高める。	自然科学としての理科を認識させ、歴史的意義や現代における役割及び環境問題などへ思考が及ぶように指導する。現代社会を生きる上で必要な学問であることを再認識させる。	A		
	授業改善	自ら思考し、課題を解決するための資質・能力を育成する。そのために、課題の解決に向けて情報を収集し、対話によって論理的・批判的思考力と表現力を養う授業を実践する。	A		
保健体育	授業に臨むための基本的学習習慣の定着を図る。	着替え、用具等の準備を含め、迅速に行動し、時間を厳守するように指導する。	B	B	・基本的学習習慣を定着させ
		授業を通し礼儀やルールを守る態度の向上を図る（指定された服装、開始・終了の挨拶、言葉	B		

		遣い等)。			ることに注力したい。 ・相互授業参観をするなど授業をより楽しく、生徒が意欲的に活動できるよう、授業改善に努めていきたい。
	十分な運動量を確保する。	生徒が十分な運動量を確保できる授業を展開する。	A		
	卒業後も主体的にスポーツや健康課題に取り組める能力の育成を図る。	主体的に活動し相互に教え合うことを通して、考える力や表現力、コミュニケーション能力の育成を図る。	B		
		ICTを活用して、スポーツや健康課題に対して主体的に取り組む態度を養う。	A		
	授業改善	教材や実践事例の共有、相互の授業観察を通して、教科指導力の向上を図る。	B		
英語	基礎学力の向上を図ると共に、授業を通して発信力を養う。	単語の小テストやパフォーマンステストを定期的に実施し、効果的に評価していく。また、ワークブックやワークシートを定期的に提出させ、学習内容の理解度を確認する。	A	A	・授業や放課後の課外、検定対策などでスタディサプリ ENHLISH 等学習支援ツールの活用方法を検討する。 ・生徒の主体的、積極的に学ぶ姿勢を育成するため、学びの形態や教材の提示方法、ALT との連携方法などについて検討し、授業改善、指導力の向上を図る。
		第1学年は習熟度に応じて1クラスを2分割し、少人数によるきめ細かな指導を行う。	A		
		学習内容の定着のため、放課後の補習授業や課外授業を実施する。	B		
		クラスルーム・イングリッシュや音声教材をできるだけ多く使い、リスニング力の向上を目指す。	B		
	英検取得を促す。	生徒たちに検定に関しての情報を定期的に周知させ、積極的に検定を受けるように促す。また、英検対策課外を行い、過去問題やスタディサプリ ENGLISH を活用して、検定試験の対策を行う。	A		
	授業改善	主体的、積極的に学ぶ姿勢を育成する。ペアワークやグループワーク等の活動において、学び合いの中で学習の定着を図る。教材の共有や、ICT・スタディサプリENGLISH 等の活用を通して、指導力の向上を図る。	A		
家庭	基礎的・基本的な知識を理解させ、技術の習得を図る。	TTや分割履修などを活用し、生徒の実態にあった指導の充実を図る。	A	A	・評価と指導の一体化を常に意識して授業を実践することができた。 ・地域との連携を十分にいかすことができた。 ・次年度は、ICT 活用および評価については定期的に研修を行いたい。
		個に応じた知識・技術の基礎基本の定着を図るため、丁寧な個別指導を積極的に導入する。	A		
	生徒の興味関心を考慮した授業の工夫をする。	実践的・体験的な学習や教科横断的な学習を実施する。変化に即応できる生活者としての知恵を身に付け活用できるように指導を工夫する。	A		
		地域との連携や外部の専門家による指導、コンクールへのチャレンジなどを通して、生徒の意欲・関心が高まるように指導を工夫する。	A		
	授業改善	ICT 等を活用し、自己評価と他者評価を行ないながら、主体的に学ぶ態度を育む指導の充実を図る。	A		
芸術(音楽)	音楽を愛する心情を育て、様々な表現方法を身に付ける。	多様な音楽活動を通して、生涯にわたって積極的に音楽活動に親しむ態度を育てる。	A	B	・器楽の活動における、協同的なグループ活動の模索 ・多様な音楽文化の理解につながる鑑賞題材の検討
		歌唱・器楽の活動において、グループでの活動などを通し、音楽を作り上げる喜びを味わう。	B		
	多様な音楽文化への理解を深め、音楽に対する感性を磨く	様々な分野の音楽を主体的に鑑賞し、感じたことを言語で表現し共有する。	B		
		日本の伝統的な音楽の演奏や鑑賞を通して、日本の伝統文化を尊重する態度を養う。	B		
	授業改善	ICT 機器を活用し、生徒が自分の取り組みを振り返りながら学習に取り組めるようにする。	A		
芸術(美術)	美術を愛好する心情を育て、創造的な表現と鑑賞の基礎的な能力を身につける。	生徒が自分に引きつけて考えを深められるような課題設定に努める。また、生徒一人一人が主題（問い）を生み出し、制作を通して個性を発揮できるよう、段階的な指導を行う。	B		・ICT 機器を活用した意見交換、交流は検討が必要である。

		画材の基本的な使い方を習得させる。	A	B	・画材の使い方・片づけ方等はどの学年も身についている。
		原始時代から現代までの絵画・彫刻・デザイン・映像・漫画などを鑑賞し、美術文化の歴史や価値について理解を深める。ＩＣＴ機器を活用して、芸術作品の見せ方や意見交換の方法を工夫し、効果的な鑑賞につなげる。	B		
	授業改善	授業の目標を明確に示し、生徒が自分の達成度を確認しながら学習に取り組めるようにする。	B		
事務部	予算管理の適正化を図る。	各校務分掌とのヒアリングを実施し、不要予算の削減と必要予算の配分を行い、効果的な予算執行に則した配分を図る。	B	A	・消防設備・校務用ｻｰﾊﾞｰの故障等、学校管理上影響があるものの修理が発生し、限られた予算内での対応に苦慮した。 ・LED 化について、本年度は 5 教室分整備することができた。未整備教室数が多いため来年度以降も順次整備を進めていきたい。
		水道料金については、毎日メーターを計測し、漏水の早期発見に努める。	A		
		電気料金については、デマンド監視装置及び教室の空調機器の集中制御機能の活用により、節電を行う。また、教室等の LED 化に向けて具体的な整備計画を作成し予算化する。	B		
	施設の安全と環境美化に取り組む。	日常的な点検を実施し、危険箇所の発見及び簡易な修理・修繕が可能な場合は即時に施工することにより危険箇所の削減を図り、生徒・職員の安全な環境を保持する。	A		
		植栽等の管理計画を立て、適切な時期に処置を行うことで景観の美化を維持する。	A		
	施設設備の長期的な整備計画を進める。	長期的計画のもと、空調設備更新や ICT 教育関連設備（ｱｸｾｽﾎﾟｲﾝﾄ）等の整備を進める。	A		

※　評価規準：評価段階　Ａ：十分できた　Ｂ：概ねできた　Ｃ：やや不十分　Ｄ：不十分